

まえがき

本書は、2017年7月23日（日）に関西大学梅田キャンパスで開催された『エジプト学研究セミナー 2017』の講義録です。昨年に引き続いての二回目の開催でありましたが、当日は120名を超える多くの方々にご参集いただくことができました。お集まりいただいた方々に改めて御礼を申し上げます。またセミナーを成功裡に終えることができましたのは、御多忙のなか講演を御快諾下さいました田澤恵子先生と河合望先生のお陰であります。ここに記して深謝申し上げます。

このセミナーでは、古代エジプトに関心を寄せる多くの方々にエジプト学の研究成果を紹介するとともに、これからエジプト学を学びたいと考える方々に役立つような講義を目指しました。2017年度は、宗教学、文献学、考古学、歴史学といった異なったアプローチによるエジプト学研究を紹介しました。本書によって、その多様な研究の一端に触れていただくことができるかと思えます。こうした我々の試みが、日本のエジプト学の発展に少しでも寄与することになるなら、それは望外の喜びというほかありません。

本書の出版にあたっては、多くの方々のお世話になりました。田澤恵子先生と河合望先生には、御多忙のなか玉稿をお寄せいただきました。ご無理をお聞き届け下さいましたことと併せて、深く感謝申し上げます。編集作業では、関西大学国際文化財・文化研究センターのPD末森薫氏、同RAの肥後時尚氏に御尽力いただきました。厚く御礼申し上げます。また以下の方々にも御協力いただきました。関西大学大学院文学研究科総合人文学専攻の松村由美氏 関西大学文学部総合人文学科世界史学専修の尼崎弥生氏、太田壺成氏、東濱直希氏、星野凌汰氏、川崎智也氏、皆さんの御助力に感謝いたします。

昨今の人文科学軽視の風潮も手伝って、今後ますます日本におけるエジプト学研究の道りは厳しさを増すことが予想されます。しかしながら本セミナーに多くの方々が御参集下さったことも確かであり、これはエジプト学研究の成果を多くの人々が求めていることを示しています。このセミナー開催によって、悲観すべきことばかりではないということを改めて認識することができました。我々は弛まずエジプト学の発展に尽力してゆこうと思えます。今後とも皆様の変わらぬご支援を賜ることが出来れば幸いです。

吹田 浩

藤井 信之（文責）